

行政視察報告書

令和7年11月13日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄様

長浜市議会議員 中川 リョウ

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 観察等名 産業建設常任委員会視察研修
2. 観察期間 令和7年10月29日（水）～10月30日（木）
3. 観察場所及び目的
 - ①静岡県掛川市
「民泊の推進について」
 - ②愛知県安城市
「アグリライフ支援センターをはじめとした農業振興施策について」
4. 調査内容感想等

①静岡県掛川市 「民泊の推進について」

掛川市の空き家対策について

■空き家の現状

全国の空き家率 13.8% 掛川市はやや高い 17.1% 9090 件の空き家を有する。平成30年にはやや空き家は減少したが令和5年に急激に増えている。空き家数の把握が課題。

■空き家対策について

平成29年8月に空き家対策計画を策定。内容は専門家組織の活用とご近所との連携。専門家として「NPO 法人かけがわランドバンク組織」を活用。他職種連携で建築士、司法書士、宅地建物取引士など

平成 30 年 2 月に空き家対策に関する協定書締結。予防、活用、解体を委託した。ワンストップ相談窓口としての機能もある。

■空き家の民泊利用について

空き家が増加していく中、空き家の除却だけでなく、再利用、活用での解決を検討。交流人口の増大につながる民泊事業に着目し、新規の創業者発掘へと繋げる。内容は既存民泊事業者への情報公開、民泊用物件の掘り起こし及び情報提供、民泊事業操業マニュアルの作成、建築チェックリストの作成、民泊事業セミナーの開催を実施している。

■民泊事業情報の公開

民泊事業の実践者 2 名のインタビューをかけがわランドバンクの HP で公開。

■空き家の実態把握

住宅土地統計調査、空き家机上調査、かけがわランドバンクによる調査、自主防災会に対する空き家アンケート。今年度は(株)ゼンリンと空き家実態調査業務委託契約を締結。特徴は空き店舗やテナントも空き家として認定することにしている。実数は 3000 件ほど

■空き家情報の公開

かけがわランドバンクによる空き家バンクの運営、掲載を実施している。無料で登録できる。

■掛川民泊操業マニュアルの作成、公開

民泊のスタイルや法規制による項目ごとの比較を物語形式で作成。建物選びが重要なため建物チェックリストも掲載している。

■民泊事業セミナーの実施

民泊への取組に対する意欲向上、啓発のため開催。

■空き家活用モデルの創設

市内の空き家を改修し、地域活性化に貢献する施設を設置運営する事業者を募集する。補助額は対象経費の3分の2（限度額1000万円）これまでの採択件数は4件

■今回の視察を通して

安城市では民泊施設の数は少ないが、NPO法人を活用して官民共同で施策を推進されていることは今後の拡がりを期待できる。長浜市では数多くの民泊施設が存在するが、政策的な誘導や横の繋がりを創る施策は展開されていない。宿泊可能室数が少ない長浜市において、民泊の性質を活用した「民泊mのまち」を目指す必要性が感じた。民泊施設は他の宿泊施設とは異質でその地域の良さや地域との繋がりを感じる性質がある。また、オーナーとのコミュニケーションにより、リピート率も高い傾向にある。そういう性質を活用して数多くの民泊施設との連携によるシナジー効果を追求すれば移住の推進など様々な効果を期待できる。

②愛知県安城市 「アグリライフ支援センターをはじめとした農業振興施策について」

■現在の安市の農業の現状

明治用水の開削により、農都としての基礎が築かれた。「日本のデンマーク」と呼ばれていたこともある。先人の歩みが今も受け継がれている。乾杯条例を制定し、商業と組み合わせて地物の農産物が消費されるような工夫がされている。「安城グルメガイド」の活用、農業課の職員の名刺には市内の農産物のイラストを加えてPRしている。

農業振興地域が市域の3分の2、市域の3分の1が農用地区域として設定されている。農林業センサスを見てみると全国的な傾向と同じように農地、農家の数は減少傾向である。

主な農産物は米、麦、大豆、きゅうり、いちご、梨、いちじく、葡萄、施設花き、畜産もある。

農業産出額は 78 億円。野菜、米が主力。水稻は 9150t、コシヒカリ、なつきらり、あいちのこころなど高温に耐性のある品種を使用。麦は 5210t、大豆は 1150t、いちじくは 16ha で労働者は高齢者と女性がメイン。新規就農者が減っている状況。JA がいちじくセミナーの開催など普及に努めている。梨は 107t だが、品種あまひびきは品薄で数量が少ない。

農業に関する計画として「第三次安城市食料、農業、交流基本計画」は第 3 次安城市食育推進計画・安城市都市農業振興ビジョン(令和 5 年度～令和 9 年度)↑統合して作成。

食料、農業、交流の課題の整理して日本デンマークの継承と新時代を拓く安城農業の実現を目指している。

田んぼあーとを通して、農家の方の触れ合いや市民、学生などの関心を引くような取組も実施している。

■かなえる計画の基本的な考え方

計画の基本方針

食料に関する基本方針農業の恵みを享受し農業を支える市民生活の実現農業に関する基本方針

活力ある農業経営基盤の構築と持続可能な農業の推進交流に関する基本方針

農業を核とした交流促進と農業資源を活用した安城農業の活性化

この三つの方針を基本に施策を展開している。

田んぼアートの活用、畑、樹園地お見合いシステムの活用

年間 3000 万円の予算を確保し、新規就農の方に向けた設備投資補助を実施して

いる。

■アグリライフ支援センター

野菜の育てるメリットとして収穫の喜びや新鮮な野菜を食べられる、体を鍛えるなどがある。畠は田んぼと違って、毎日やることがある。

受講生の声

収穫の感動や人に配ってたくさん的人に喜ばれる。

施設開設に至るまでの経緯

安城市アグリライフ構想の策定。市民が農を身近に感じて楽しむことを基本に退職した市職員、農林高校の教師や JA、技術を持っている方で運営している。アドバイスができるリーダーの育成も実施している。

研修内容

(1)野菜づくり「入門コース」(各 25 名)春夏野菜コース・・・4月～8月の週 2 回程度実施(35 回程度)秋冬野菜コース・・・8月～1月の週 2 回程度実施(35 回程度)

(2)野菜づくり「実践コース」(5 名)7月～翌年 6 月の週 1 回実施

(3)「一坪農園」野菜づくり(各 20 組程度)春夏野菜コース・・・4月～7月の土曜日に 7 回程度実施秋冬野菜コース・・・9月～1月の土曜日に 7 回程度実施

(4)「スポット講座」(各 20 組程度)4 つの講座・・・土曜日に各 1 回又は 2 回
研修内容

課題

春夏コースは受講者は抽選を実施するほど多いが、秋冬コースは少ない。

☆実施する時期の重要性

卒業生に農業を続けてもらうこと、例えば農地を探してが見つからない等、農地マップ、農地マッチング制度は市が整備している

受講生の募集 令和 6 年度はポスターを作成して市内町内会に配布、掲示した
が効果無し

講師の人材確保

質問

我々は新規就農者を増やすために来年度から農業塾を実施するが、新規就農者
が生まれているのか？

秋冬コースを増やすための施策は用意されているのか？

農業を続けてもらう継続性、お見合いシステムの活用と実績はどうなのか

集客

野菜の残渣や規格に合わない野菜の処理

- JA 主催で農業塾、岡崎に農業大学校はある

■今回の視察を通して

農業を市民生活の一部と捉えて長年取り組んでこられた安城市では政策的な広
がりは限定的であった。しかし、政策誘導するその姿勢と理念は長浜市も見習わ
なければならない。農業生産者だけの農業では農業振興の様々な取組が農業関
係者だけのものになるため、市民をどう巻き込んでいくのか、農業振興計画にも
具体的な手法を盛り込まなければならない。